

### III 調査海域

調査対象海域は本部半島東岸から辺戸岬に至る沖縄島北部西岸海域である(図2)。

この海域の南西側には、本部半島と屋我地島に囲まれた通称”羽地内海”が、古宇利島と屋我地島の東方には通称”羽地外海”があり、水深10m以浅の広大な浅海域が広がる。ここは沖縄島でも海岸線的人為的攪乱が少なく、かなり自然の状態がよく残されたところである。屋我地島と古宇利島東側の海岸線沿いの水深2~3mのところにはアマモ場が帯状によく発達する。この東方には水深20~30mの深みを挟んで仲尾干瀬がある。また、その対岸の沖縄島側には内湾性の強い塩屋湾がある。

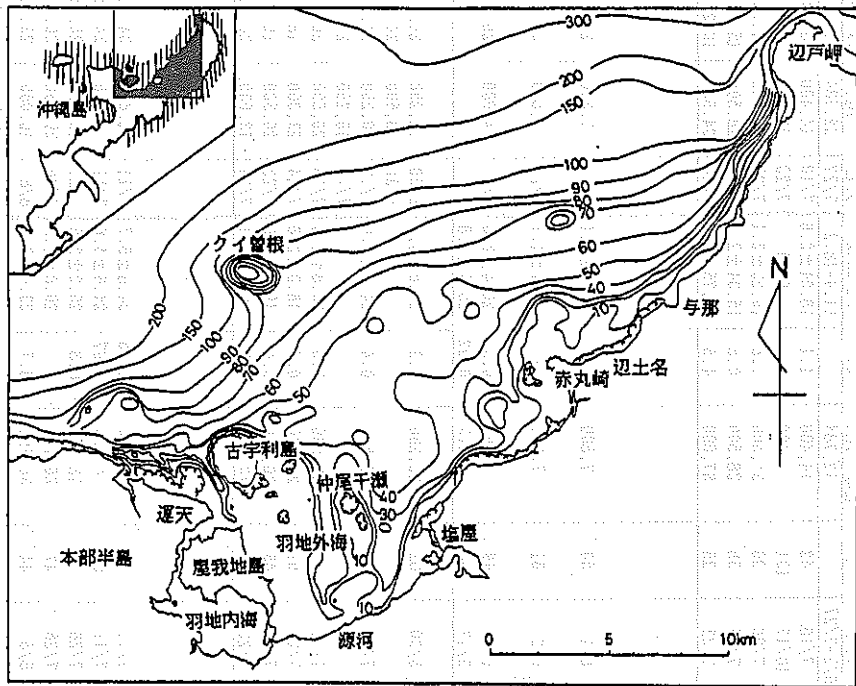


図2 調査海域とその海底地形

そしてさらにその北東方の辺土名沖までは、50m以浅の海域が広がっている。また古宇利島や辺土名の北方沖には、クイ曾根などの大きな天然礁がある。一方、辺土名以北は等深線が密に海岸までせまり、急峻な海底地形を呈する。この海域の南西側は内湾と浅海域、北から北東側は外洋域というように区分でき、起伏に富んだ海底地形を呈している。

漁業的には、赤丸崎より南西側は名護・本部・今帰仁・羽地の4つの漁業協同組合の共通の共同漁業権漁場であるが、これより北東側は国頭漁協単独の共同漁業権漁場である。この海域ではもっぱらこれらの漁協の漁業者が刺網・定置網・底延縄・矛突き・籠などの漁業を営んでいるが、他の漁業組合の漁業者が底延縄やアカジン曳きなどの操業をすることもある。